



税への気づき

清明学園中学校 三年 松山 寛太

街を歩けば舗装された綺麗な道路がある。交通安全のために信号シテムがある。遠くへ行きたい時は高速道路がある。このような当り前の日常生活も、実は税によって成り立っていると知って、驚きと共にとても新鮮な思いを抱いた。

正直、僕は税金と聞くと、どうしても良いイメージは持てなかった。大人は「また税金上がる」「税金高いなあ」といつもため息をついているし、僕だって、つい先月、弟の誕生日プレゼントを買おうと思い、品物をレジに持って行くと、思ったより多くの金額を表示された。「消費税」だ。お小遣い制の僕にとって、これはなかなか手強い相手だ。

買い物をする時に、消費税を払っていることは知っていたが、法人税とか所得税、住民税に贈与税、相続税、自動車税、温泉に入るのに入湯税なんてものまでであると聞いて、一体どれだけの種類の税があるのかと僕は驚いた。それでもまだまだ、僕には身近なものとして感じることはできなかった。

二〇二〇年、突然この地球に現れたコロナウィルスは、嵐のように世界中の人々を巻きこんで混乱のどん底に突き落とした。連日ニュースで

は、地球の裏も表もなく感染者が街にあふれ、死者が空き地へ積み重ねられていく。目を覆いたくなるような光景が次々と映し出されていた。僕たちも、学校は休みになり、お店も閉店。特效薬もなく、これまで想像すらつかなかったような出来事が現実には起きた。人々は命を守るのに必死だった。

そのような状況でも、医療従事者は出来る限りの治療を施し、学者は研究に没頭、世界各国のあらん限りの税を投入し、試行錯誤の上、四年に渡って研究開発に取り組み、今、ようやく少しずつ落ち着きを取り戻しつつある。

PCR検査、自宅への食糧配布、ホテル療養、入院…全て税金で賄われていたと知り、全く税に興味もなかった僕にとって、一気に身近に感じさせられた。

今後ともまた違う形で、危機的状况に陥ることがあるかも知れない。どんな状態になっても、税による的確な対応、国民を守る努力に僕は期待したい。

従兄弟が教えてくれた。北欧では、何十パーセントという、日本よりも高い消費税率だが、国民の幸福度は世界一だぞうだ。何故かということ、子どもの養育費が無料になったり、医療費が大幅に控除されるなど、とにかく福祉サービスが手厚いのだという。生活の安定、つまり幸福に対して、税金という対価を払っているという考え方なのだ。と。日本もゆくゆくは、そんな幸福度の高い社会になれば良いな、と思う。